

生連協だより

vol.93

発行 〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030 会長校：神奈川工科大学 TEL：046-291-3249

編集担当 桜美林大学・国際武道大学・国土館大学・二松學舎大学

印刷 株式会社 エムディーエス



関東地区学生生活連絡協議会 新会長挨拶

神奈川工科大学 学生部長 藤村 陽

今 年度、会長校を仰せつかりました神奈川工科大学で学生部長を務めております藤村と申します。会長の就任にあたりご挨拶を申し上げます。

私が大学に入学した30数年前には25%ほどだった4年制大学への進学率は、今や50%ほどになりました。同世代の半数が大卒となるのですから、大多数の大学は、一部の人間のみが携わる学究の場としてだけでなく、日本社会の平均層に対する最後の学校教育の場としての役割を果たす必要があるのは、外から求められなくても自明のことです。

進学率の向上は高等教育に携わる人間としては第一義的には喜ぶべきことでありますが、進学率が低かった時代に比べ、自発的にある程度の強い意志をもって進学を選んだわけではない大学生の割合が増えているのも避けられない事実です。また、現在の学生は、子供の頃から格段に便利なモノに囲まれ、ことあるごとに我々大人がいろいろとお膳立てをした機会を与えて育ててきました。大人になるのが遅く見えるのも無理はありません。加えて、大学がいかに学生に手厚いかを宣伝すればするほど、授業料を負担される保護者の方々が大学に寄せる期待も、大きなものとなってきています。さらに世の中の大きな変化として、インターネットと情報機器の普及によって、玉石混交の情報が身の回りに溢れ、ちょっとした誤りや一時の感情に任せた不用意な情報発信が修復不能な結果を引き起こすことも身近に見聞きするようになりました。

こうした学生や社会の変化の中、学生生活全般のサポートが以前とは違った格段に難しいものになってきていることは、この協議会にご参加の皆さまが、日々、学生に接しながら感じていらっしゃると思います。学生が社会に自分で羽ばたいていくための手助け以上に手厚く面倒をみすぎることは、学生の成長を妨げてしまう一方で、大人が先回りして準備や保護をしないと、学生生活の継続が難しくなったり、学生主体の行事が進まなかったり、社会のさまざまな誘惑や悪意から学生を守れなかったりするということも増えてきました。

このように学生サポートのあり方が複雑で多様になり、また変化しつづけている状況においては、多くの大学の間で情報や事例の共有をし、知恵を集めることは大変貴重であり、真に有益なことであります。この協議会は、まさにそうした重要な役割を果たしてきた場であり、そのことは、この協議会に関わる機会を得て、何度か会合をご一緒して強く実感しております。

この挨拶をお借りしてお伝えできればと思うことがあります。私が現在の勤務校に着任して少し驚いたのは、教員になりたいという学生が、本人の勉学への取り組み方や人に物事を教えることの覚悟が弱い割には多いことでした。彼ら彼女らに、その動機を聞いてみると十中八九、「(小中高時代に)とても良い先生に出会えたから」と憧れを答えます。考えてみれば、小中高生が仕事を最も身近で感じる職業人は学校教師ですから、私の初めの驚きはむしろ納得のいくものになりました。

そう考えると、大学が良き社会人を送り出すためには、学生の目の前で働く教職員の姿が「あんな大人になりたい」と学生に思わせる雰囲気には溢れていることが、学生の心を動かす重要な核心であると言えます。そういう意味で、学生サポートの現場にいる職員の皆さまは、学生の人生への希望のもちように教員以上の影響も与える存在です。そして日本の将来を考えると、良き社会人を送り出す仲間としての大学間の連帯こそが、大学間の競争以上に大事なことでありと思います。

今年度会長校として協議会の運営を担当させていただくことは、私ども神奈川工科大学にとりまして大変な重責ではございますが、学生支援の質を向上させることのできる得がたい機会と考え、この貴重な場がますます発展していけるよう精一杯の努力をしていく所存であります。

微力な私どもが、この重責を全うするには、常任校の皆さま、そして会員校の皆さまのお力添えを欠くことはできません。何かと行き届かないこともあろうかと存じますが、どうぞよろしくご指導を賜りますようお願いいたします。



第49回

通常総会開催

2014. 5. 23 fri

神奈川工科大学メディアホール

平成26年度 三役校決定! >>>

会長校

神奈川工科大学

副会長校

東海大学・杏林大学

平成26年5月23日(金)、神奈川工科大学、情報学部棟12階メディアホールにおいて、第49回通常総会並びに第1回(通算102回)講演会を開催した。

総会は、会場校・神奈川工科大学学生 図書館担当理事 関 正氏より挨拶の後、東海大学 湘南学生支援課 課長補佐 松木 三徳氏を議長に、書記に桜美林大学 学生センター 学生生活支援課 課長 高原 幸治氏および東洋大学 学生生活課 課長補佐 黒崎 知洋氏を選出し議事に入った。

第1号議案 平成25年度事業報告

会長校杏林大学 学生支援課 課長 安藤 英視氏より、原案について資料のとおり説明があり、賛成多数により、異議なくこれを承認した。

第2号議案 平成25年度決算報告

会長校杏林大学 学生支援課 課長 安藤 英視氏より、原案について資料のとおり説明があり、つづいて拓殖大学 八王子学生生活課長 中洞 三雄氏より会計監査報告がなされ、賛成多数により、異議なくこれを承認した。

第3号議案 平成26年度役員校・顧問選出(案)

副会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生課 学生担当部長 鈴木 隆氏より、原案について資料のとおり提案がなされ、賛成多数により、異議なくこれを承認した。

第4号議案 平成26年度事業計画(案)

新会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生課 学生担当部長 鈴木 隆氏より、原案について資料のとおり説明があり、賛成多数により、異議なくこれを承認した。

第5号議案 平成26年度予算(案)

新会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生課 学生担当部長 鈴木 隆氏より、原案について資料のとおり説明があり、賛成多数により、異議なくこれを承認した。

第6号議案 関東地区学生生活連絡協議会規約改定(案)

新会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生課 学生担当部長

鈴木 隆氏より、原案について資料に沿って任期制幹事校制度導入の目的は、定数に対し欠員が常態化している常任委員会の活性化をするためにあり、任期制幹事校につきましては、会員校に過度のご負担とならない範囲でご協力を頂きたいとの説明があり、以下の質疑応答を経て賛成多数により、異議なくこれを承認した。

(質問)任期制幹事校就任を断ることはできるのか。

(回答)会員校の応分の負担をお願いしていることもあり拒否はできないと考えている。ただし、各校校務のご都合を優先して頂き可能な範囲で常任委員会への出席をして頂ければ良いと考えている。現状の常任委員会においても全ての常任校が出席することは少ない状況である。

(質問)大学名五十音順持ち回りの方法について念のために確認したい。

(回答)平成27年度は麻布大学・亜細亜大学・茨城キリスト教大学、平成28年度は和光大学、麗澤大学、ルーテル学院大学の各会員校にお願いすることになる。

(質問)本年度からではなく来年度から開始という理解で間違いないか。

(回答)その通りで来年度よりお願いしたい。本年度は準備期間の位置づけで本制度のご理解を頂く期間としている。

以上、議事は滞りなく進行し、無事終了した。

議事終了後、常任委員校の紹介がなされた。引き続き、新会長神奈川工科大学 学生部長 藤村 陽氏より新任挨拶がなされた。

閉会后、神奈川工科大学 学生課 課長代理 和田 美賀子氏より平成26年度第1回講演会における講師についての紹介がされた後、神奈川工科大学 情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 塩川 茂樹氏により、テーマ「SNSを安全に上手に利用して楽しい学生生活! ~今さら聞けないSNS入門講座~」と題した講演がなされた。その後、前会長 杏林大学総合政策学部 教授 原田 奈々子氏より退任の挨拶がなされた。

出席者は、この後第4食堂にて懇親会を行った。神奈川工科大学 学生担当部長 鈴木 隆氏の司会により進められ、神奈川工科大学 学生部長 藤村 陽氏より挨拶、杏林大学 総合政策学部 教授 原田 奈々子氏の乾杯があり、以後親睦が深められた。

懇親会は、東海大学 教学部 次長 染谷 宏氏の挨拶後、閉会した。

講演会 Report

第①回 講演会レポート

▶講師 神奈川工科大学 情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 塩川 茂樹氏

▶テーマ 「SNS を安全に上手に利用して楽しい学生生活! ~今さら聞けない SNS 入門講座~」

急激に利用者が拡大しているSNS(Social Networking Service)の基本的な仕組み、代表的なコミュニティ型ネットワークサービス(自己表現の場:ブログ、コミュニティスペース:ミクシー・フェイスブック、自己表現+コミュニティ:ツイッター、コミュニケーション+コミュニティ:LINE)について解説された。

続いて「SNSをうまく使うために知るべきこと」、「ネットワークコミュニティ上のトラブルはなぜ起きるか」、「SNSを利用するうえで守るべきこと」について具体的に詳細に説明され、現実のコミュニティでのコミュニケーションの大切さ、「相手を信頼すること」の大切さが解説された。

特色ある取り組み紹介

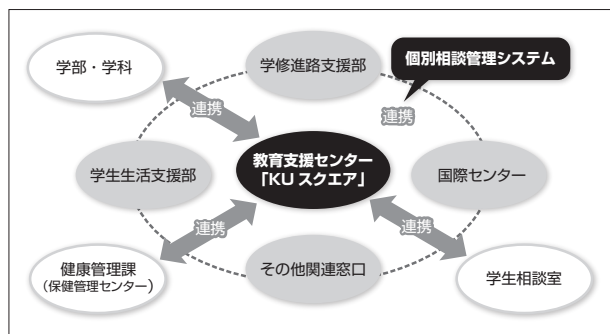
Kanagawa University 神奈川大学

教育支援センター及びKUスクエアについて

神奈川大学での「学生の学びや活動支援の取り組みについて」教育支援センター及びKUスクエアを紹介します。

本学教育支援センターは、高等教育のユニバーサル化に伴い、多様な学生が入学している状況に対して、教育の質保証及び向上を使命として2012年4月に開設しました。本学における教育の質保証は、学生一人ひとりの身に即して考えると「自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、専門的知識と技能を身に付けた、自ら成長することのできる人材」(神奈川大学の理念)として教育し、世に送り出すことです。教育支援センターはこの使命をFD活動及び「KUスクエア」での学生支援活動の2つを通じて実現していきます。

学生支援活動の中心となるスペースが「KUスクエア」です。「KUスクエア」では、基礎的な学力や学習の方法、自立的な学習習慣を身に付けるための学習相談(英語・数学・国語)、学生生活において対人関係やサークル活動等の悩みにおける総合相談、さまざまな障がいをもつ学生への対応・学生ボランティア活動に対する支援を行っています。さらに関連部署との連携をすることにより、これまで以上に大学全体の支援体制を充実させることを目指しています(下図参照)。



▲教育支援センター連携図

教育支援センターは、FD活動と学生支援活動の2つを結びつけ、循環させていくことで、学部学科、大学院研究科と一体となった本学独自の活動を創造し、教員、職員、学生がともに向上できる運営をしています。

「KUスクエア」には、総合相談コーナーをはじめとして横浜・湘南ひらつかの二つのキャンパスを中継するテレビ会議システム、学生がプレゼンテーションやグループ学習できるコーナー、自由に憩えるコーナーを備えています。また、学生や教育支援センターが主催する学生生活・学習支援に関する各種セミナーなども開催しています。

「KUスクエア」は、学生の総合相談窓口ですが、すべての相談について一貫した対応を行うのではなく、従来の各部署の学生対応窓口とも個別面談システム等を活用して連携し、各窓口を有効的に機能させる役割を担っています。ここでは、「KUスクエア」における学生支援活動の一部を紹介します。

1. 新入生なんでも相談窓口アスクカウンター

新入生オリエンテーションから履修登録完了までの期間、「新

入生の不安や悩みを先輩学生の経験と視点から解消し、新入生がよりよい大学生活をスタートできるようサポートすること」を目的に「新入生なんでも相談窓口アスクカウンター」を開設しています。

「アスクカウンター」は学生組織「学生UD(University Development)委員会」が新入生のために開設し、教育支援センターが支援しています。毎年多くの新入生が先輩学生による履修相談、クラブ・サークル紹介、施設案内等に訪れています。

この「アスクカウンター」は、新入生のためだけでなく、相談に応じる上級生も「新入生の質問をしっかりと傾聴し、親身になって丁寧に教え、積極的に課題解消に向けて取り組むこと」により、コミュニケーション能力向上等の自身の成長を実感し、本学への帰属意識の醸成にも繋がっています。



▲新入生なんでも相談窓口アスクカウンター
【横浜キャンパス】



▲新入生なんでも相談窓口アスクカウンター
【湘南ひらつかキャンパス】

2. 学生のための継続的な学習相談

大学での学習を進めるうえで基礎となる英語、数学、国語(文章表現)について教育経験の豊富な学習相談員が基礎・基本から「日常的継続的な学習支援」を行っています。主に高等学校までの学習に不安がある学生を対象としています。意欲的、主体的に自分の学力をさらに発展させたい学生にも、状況に応じた助言を行っています。また、学生相互の助け合い、学びあいとして学生有志による上級生の学生スタッフを配置し、仲間づくりや学びあいなどの学生同士の交流の場を提供しています。

KUスクエアは学生の総合的な支援を行う窓口であるばかりでなく、これらの活動を通じて学部・学科・学年の垣根を超えた学生同士の交流の場ともなっています。



平成25年度関東地区学生生活連絡協議会 会長校の任期を終えるにあたり

杏林大学 総合政策学部 教授 原田 奈々子

平成25年度、関東地区学生生活連絡協議会（以下、生連協）の会長校を務めさせて頂きました。昨年5月の総会における講演会では、本学医学部の佐藤喜宣教授による「薬物乱用」に関する講演会、9月の夏期合同研修会では恵泉女学園大学学長の川島堅二先生を招き「大学のカルト対策」についての講演会、そして11月には、学生支援の発展と共にこの領域を開拓してこられた東海大学の曾田成則先生およびSNSの専門家として柳沢富夫先生をお招きして講演会を行いました。これらのテーマは、いずれも現在の学生生活に関わるタイムリーな問題であり、各大学において学生生活支援を実践するにあたり活用することができる知識と多くの示唆を頂くことができました。

また7月には東京入国管理局の審査官を招いての留学生担当者研修会が開催されました。ここでは、大学のグローバル化が進められる中、ますます重要性が高まる留学生の在留資格等に関する運営業務についてご指導を頂きました。

さらに9月の夏期合同研修会では、五つの分科会に分かれ、現在大学が直面する学生支援に関する諸問題が活発に議論されると

共に、参加大学間の情報共有が行われました。こうした大きな年間行事を無事務めることができたのは、ひとえに副会長校の神奈川工科大学様ならびに明星大学様ほか、幹事校各大学のみなさま、そして会員校のみなさまのご理解とご協力の賜物です。この場をお借りして、厚くお礼を申し上げる次第です。

最近の大学をめぐる環境は、ますます大きく変化しつつあります。こうした環境の変化に対応しながら多様な学生のニーズに応じた支援を行っていくには、担当部署の教職員個々人の力ではなかなか難しく、まさに組織力が問われる時代になっています。この生連協は、会員校のみなさまにとって貴重な情報共有の場であり、大学間の連携を深めることのできる場でもあります。本学もまた、生連協から得られた情報を活用し、学生支援業務をさらに充実させることができました。これも生連協の組織力を生かしたものと感じております。

平成27年度に生連協は50周年を迎えます。当協議会の今後ますますの発展と会員校各大学における学生支援業務の発展を心よりお祈りしています。



「留学生担当者研修会」報告

本年度も千葉県私立大学学生支援研究協議会と神奈川県学生生活協議会とのコラボレーションによる、取次申請者資格取得研修を含む留学生担当者研修会を開催いたしました。

研修会では、東京入国管理局からお招きした3名の審査官から、取次申請に関する事項および最近の留学生の入国・在留状況等について情報提供していただきました。

留学生担当者 研修会の開催

- ▶期 日 平成26年7月18日(金)
▶場 所 東京都市大学 世田谷キャンパス

内容：

- ①「出入国管理行政の概要について」 就労審査部門 統括審査官 赤田 幸一氏
- ②「出入国審査・在留審査業務について」 留学審査部門 統括審査官 上野 義則氏
- ③「申請取次制度について」 留学審査部門 首席審査官 横川 なるみ氏
- ④情報交換会

